みんなのひろば

スマホで動画！
アプリでARのある写真を写すと動画が見られます。
詳細は市HP（「AR」で検索）へ

▲男女共同参画週間に合わせて行われた『ふらっとまつり』。開設20周年を迎えた「男女共同参画推進センターふらっと」で世界大会で優勝経験がある山北由香さんによる「バルーンアート」のほか料理教室、利用登録団体の活動発表などが行われ、にぎわいました。
6月27日㈯／男女共同参画推進センターふらっと
（写真：市民カメラマン・白須信一／動画：同・笠原政男）

▲100人を超える参加者が集まった『親子キックベース・ラケットテニス』。ウォーミングアップと簡単な講習を受けた後、実戦形式のゲームを楽しみました。会場内には応援の声が響き、好プレーが出ると笑みがこぼれました。
7月18日㈯／市民体育館
（写真：市民カメラマン・津田資雄／動画：同・笠原政男）

▲4組のハワイアンバンドがステージを彩った『第24回ハワイアンフェスティバル』。会場は早々に満員となり、大勢の観客は爽やかな歌・演奏・ダンスに酔いしれました。
7月5日㈰／吾妻まちづくりセンター
（写真：市民カメラマン・浅見司郎／動画：同・宮本博史）

▲所沢の夏の風物詩となった『第7回野老澤行灯廊火』。前年は大雨に泣かされましたが、今年は見事100個の行灯に火がともりました。大人気の「きもだめし」は長蛇の列が切れず、100人規模の浴衣＆おばけパレードは大きな歓声を浴びて街中を活気づけました。
7月18日㈯／元町コミュニティ広場ほか
（写真：市民カメラマン・遠井洋子）

突撃！ライオンズ特派員！④

©SEIBU Lions

今回の市民レポーター！

左から会社の同僚で観戦仲間の林　雅貴さん（東村山市在住）、仲沢秀幸さん（荒幡在住）、岸本　翼さん（あきる野市在住）

今回の突撃先！

ブルーレジェンズ・Yukiさん、mayuさん

キレのあるダンスやファンサービスでライオンズを盛り上げてくれるパフォーマンスチーム「ブルーレジェンズ」。今回は埼玉県出身のリーダー・Yukiさん（写真右）と、所沢市在住のmayuさんの二人に迫ります。

インタビュー「ブルーレジェンズってどんなチーム？」

ファンにとって身近な存在であるブルーレジェンズ。雰囲気はアットホームで「12球団で一番仲が良いチーム」と語ってくれた一方で、選手同様みんなライバルであるとのこと。100人近い応募の中から選ばれた17人で、試合の舞台に立てるのはわずか12人。栄養価の高いものを食べたり、テレビ観賞中も筋トレをしたり、常に体に気を使っているプロパフォーマーの意識の高さに驚きました。

5回裏になるとスタンドでブルーレジェンズとファンが一緒に踊って触れ合うのがライオンズ流。mayuさんは「負けている時こそ、スタンドのみんなで一緒に踊って球場を盛り上げ、選手の力になりたいです。踊りが分からない方も、フラッグを振って一緒に応援しましょう！」と笑顔で話してくれました。

「ブルーレジェンズの最大の魅力は、球場に足を運んでいただいた方に、パフォーマンスを通じて、テレビでは伝えられない楽しさを体感してもらえること」とYukiさん。球場に足を運んだ際は、選手はもちろん彼女たちの活躍にも注目ですね！

▲インタビュー風景

レポートを終えて

ブルーレジェンズのインタビューのほか、普段見られない球場のバックヤードにも入れて、ライオンズの選手を支えている裏側を知ることができました。インタビュー後の試合はライオンズが快勝して、大満足の1日でした！

問商業観光課☎２９９８－９１５５

はっらつところ野老っ子

「本当は封印したかった」。
誰にでもきっと語りたくない過去があるだろう。辛く、苦しい思い出であるはずの戦争体験を伝える「平和の語り部」を続けて10年。杉本孝一郎さんはこれまでに、小学生を中心とした約5,000人に自身の体験を語ってきた。

昭和７年生まれの83歳。小学４年生だった昭和16年12月８日、先生が朝礼で開口一番、「戦争が始まった」と教えてくれた。次第に戦火は激しさを増し、空襲警報が鳴ると必死で防空壕に逃げ、震えながら音が止むのを待った。６年生の時の修学旅行は中止、夜中も防災頭巾を手放せない生活。だが、何より辛かったのは「食べ物がないこと」だった。

戦中、戦後の日本は飢餓状態。現在のアフリカのような状況だった。遠い国の話ではなく、この「日本」が飢えていた。杉本さん自身も20代のころ、栄養失調で倒れる。「長生きはできないと思っていた」。

それでも、現在は83歳とは思えないパワーで数々の地域活動に尽力する。「地域貢献をするとね、自分も元気になるんだよ」。過去の辛さを微塵も感じさせない柔和な笑顔がまぶしい。

戦争体験を伝えようと思ったのは10年前の広島だ。戦後60周年の記念式典に、所沢市の代表団として参列した。国の代表などのあいさつもあったが、最も心に響いたのは小学６年生が未来に向けた「平和宣言」だった。「辛く、苦しいことでも、子どもに事実は事実として伝えていかなくちゃいけない」。翌年から「平和の語り部」となり、未来を担う子どもに体験を語る活動は、10年の節目を迎えた。

生涯、「平和と命の大切さ」を伝えたい

杉本　孝一郎さん（東狭山ケ丘在住）

杉本さんの話は衝撃的だ。13歳の冬、雪をかき分けて飛行機が迫る。操縦士の顔が見えるほどの低空飛行。機銃掃射の中、３歳と５歳の妹の手を引いて防空壕へ走った。「生きた心地がしなかった」。

新潟へ疎開した後の昭和20年３月９日、東京大空襲。10万人が死んだ。上野駅に降り立つと、建物は破壊し尽くされ、死臭がただよい、親を亡くした浮浪児があふれる。地獄絵図だった。

体験談を話すと小学生は息を飲み、真剣な表情で聴き入る。後日学校から届く感想文が杉本さんの宝物だ。いじめ体験を告白してくれた児童から、「力強く生きていこうと思います」という声が届いたこともある。

「だんだん戦争体験者は減っていく。生きている限りは『生の声』を伝え続けたい。悲惨な時代を経験するのは私たちだけでいいんです」。

８月15日は戦後70周年。平和な毎日がありがたい。

▲「平和の語り部」活動
（７月９日㈭宮前小学校）

誰でもエッセイ

◆テーマ「ゴーヤ」◆◆◆

ゴーヤはマイブーム！

北秋津　羽生　佐賀美

ゴーヤの栄養価の高さを聞き、随分前からさまざまな料理を試してきましたが、あの独特の苦みが克服できず苦手でした。ある日、テレビ番組で「マヨネーズでゴーヤを炒め、塩・こしょうを振るだけ」とシンプルな料理が紹介されていました。

簡単なこともあり、再度ゴーヤ料理にチャレンジ！おそるおそる口に運ぶと、ほろ苦さとマヨネーズの相性が抜群でなんとおいしいことでしょう!!それ以来ゴーヤはマイブームとなり、たびたび食卓に上っています。

昨年退職して時間のゆとりができ、今年はゴーヤの苗を３本ベランダに植えました。夏を涼しく過ごせる緑のカーテンにもなり、一石二鳥を狙っています。

肥料や水やり、つるの誘引、花や実のチェックと、朝夕多大な愛情を注いでいます。まるで子育てのよう、いやそれ以上かもしれません。早く食べられる日を心待ちにしています。

驚きのゴーヤ

神米金　城野　律子

ゴーヤにはいつも驚かされます。苦いものと決めつけていたとき、近所の方から、ゴーヤチャンプルの作り方を教えていただきビックリ！わずかな苦味においしく変身、それ以来大好物になりました。

去年、台所裏のあまり日の当たらない場所にゴーヤの苗を２本植え、短い支柱を立てました。その後すっかり植えたことを忘れてしまったのですが、ある日突然、窓の外が緑色に。支柱から少し離れた台所の格子にからみつき頑張って成長していたのです。これには夫婦そろって大喜び。ゴーヤのたくましさに感心してしまいました。

今年も庭と台所裏にゴーヤの苗を植えました。青々と育ち、黄色い花も咲き始めました。今年も頑張れ、わが家のゴーヤ。

地域の絆 やっぱり自治会・町内会でしょ！⑮

ご近所同士で力を合わせ、さまざまな課題解決や地域の絆づくりを行っている自治会・町内会をご紹介します。

町谷自治会

～「ふれあい」から生まれる地域の絆！～

▲神藤会長

町谷自治会は市の南西部、緑豊かな山口地区に位置し、古くから住む方々と新しい住民の方々が共存する自治会です。四季折々の行事や防災、福祉活動に力を入れ、現在は約560世帯で活動しています。

町谷自治会は、何かを通じて人と人とが「ふれあう」ことで生まれる絆を大切にしていて、自治会主催の行事にもその思いが生かされています。例えば夏祭りでは、企画段階から上山口中学校の生徒に協力してもらい、小さな子どもからお年寄りまで楽しめるゲームや模擬店を実施。「子どもが中心となって運営し、大人がサポートする体制が、若いうちから自治会活動に参加する良いきっかけになっている」と話してくれたのは神藤年三会長です。他にも地元出身の力士を交えての餅つき大会や、誰でも参加できるように距離や見どころを工夫した「歩け歩け大会」など、面白くて思わず参加したくなる行事を心掛けていて、こうした場で多くの人と人とが「ふれあう」ことで地域の絆を深めていきたいとのことでした。

▲力士による餅つき大会の様子

また、防災、福祉活動にも力を入れています。防災活動では、近隣の５、６世帯がお互いに声を掛けられるような地区にすることを目標に、要援護者安否確認チームを結成して訪問訓練を行うなど、日々連携を強化する活動をしています。

福祉活動では「町谷福祉委員見守り・声掛け活動」として、高齢者の買い物支援や見守り活動を行っています。民生委員と町谷福祉委員が「お勝手会議」という情報交換会を開いて活動内容を見直すことで、より地域に密着した活動ができるそうです。

「こうした人と人とが『ふれあう』さまざまな活動を通じて、知り合い、話し合い、語り合うことが、地域の絆を育む良いきっかけとなる」と神藤会長は力強く語ってくれました。

《次回は、吾妻地区の荒幡町内会を紹介します。》

問地域づくり推進課☎２９９８－９０８３

▶市内で撮影した写真（撮影日・場所・コメント）▶エッセイ次のテーマは『 アツい！ 』▶締切8月7日㈮▶掲載者には記念品を進呈▶文章（300字）は添削あり▶投稿　写真・原稿は返却しません▶住所・氏名（ふりがな）・電話番号を明記し〒359-8501広報課「みんなのひろば」係へ郵送または ✉hiroba@city.tokorozawa.saitama.jp